



— 第6号目次 —

会長あいさつ	森本 栄	2
熱きメッセージを今	星野絹枝	2
新しい学園づくりを夢みて	小野義三	3
大学審議会の2月答申 による短大改革について	筒井誠意	3
高知県教育界が誇りうる たった一つの日本一	近藤 勝	4
学短での思い出	柳惣治郎	5
二人で並木道	近森千賀・近森亜貴子	6
日本で学生やってみました	金 鎮宇	8
日本で学生します	竹崎 泉	9

おらんくの池の向こう岸から	岩瀬淑子	10
編集後記		10
マスターもママさんも元気です	山本孝利	11
まあ寄ってみいや	三浦順子	11
総会案内		12

発行所 高知学園短期大学・高知リハビリ
テーション学院同窓会
〒780 高知市旭天神町292-26
TEL (0888) 40-1121
題 字 川島源司先生

会長あいさつ

会長 森本 栄 (高知リハビリテーション学院7期)

初めに高知学園短期大学、リハビリテーション学院を卒業された会員の皆様におかれましては在学中教授して頂いた知識、技術を生かし県内外各方面にてご活躍されている事と思います。この度、花たちばな発刊にあたり同窓会会長として皆様にご挨拶を申し上げます。

私、昭和52年高知リハビリテーション学院を卒業いたしました。在学中から決して優秀な学生ではなくどちらかというと後ろから数えた方が早い成績でした。ところがこと遊びとなると抜群の才能を発揮し、同級生や先輩からも優秀なのは裏の高知歌謡学院だねと言われたほどで、嬉しいやら悲しいやらの思い出があります。しかし、芸は身を助けると言いますが県外へと就職した後も在学中に得た伸び伸びとした校風と芸風を基に多くの方々から仕事に遊びに親しまれ、応援して頂くことができました。でも就職し社会人となると良いことばかりはなく苦しいことも多くあり、そん

な時同窓会誌、同窓会で多くの友人や教官の皆様方の近況を知る事で学生時代を振り返り「初心忘れるべからず!」と自己を奮起させて参りました。

などと言っても実際、同窓会などとはあまり関係のない事だと思っており、いままで会誌を見るだけでまさか自分が実行委員としてやるなどとは思いませんでした。ところが成るとなかなか大変な事が多く今まで気づかなかった影の苦労を見ることが出来ました。その中でも今回の花たちばなは多くの方々の仕事と掛持ちで夜遅くまで討論し作り上げています。本同窓会誌が皆様の学生時代の記憶をよみがえらせ喜んでいただければ、裏方としてご尽力頂きました編集委員の皆様喜びになると思います。

おわりに、本年度は総会の年でもあります。何とか多くの同窓会員に参加して頂きたいと斬新な企画を立てています。ぜひ、御友人お誘い合わせの上ご参加頂きたいと思ひます。

熱きメッセージを今…

同窓会事務局 星野 絹枝

同窓会事務局よりコンニチワッ!

この春に、第23回目の卒業生を送り出し20歳を原点として出発した私達にとって、感慨深い想いのひとつひとつが今、点となり、線となり、そして面となりゆく同窓会活動の中で、確かな未来への基を築くため母校に熱視線を注がなければならない時が、もうそこまで来ているような気がします。6年後には10,000人を突破する同窓会に、嬉しくもあり心強くもあります。

事務局では、同窓生の名簿作りを始め入学式・卒業式には、スタンドの盛り花を贈り式典に花を添えております。

又、第5号でもお知らせしましたように学生の

学業の向上と研さんのために学業奨励金制度を設けて以来、はや3年が経ち、卒業生と在生をつなぐパイプ役としてその役目を果たしております。そして、私達の長年の夢であった奨学金貸与計画も現在審議事項として検討中です。

それでは、親子2代、3代と旭ヶ丘に向けての発信を期待し、又、同窓会事務局においても受信するべく準備を進めてゆかなくてはならないと思うのです。

大学冬の到来を目前にしつつ私達は、この正門をくぐりそして巣立ちゆく幾多の後輩達に今、熱きメッセージを送りたい。

新しい学園づくりを夢みて

高知学園短期大学学長 小野 義三
高知リハビリテーション学院学院長

わが国の18才人口は、1992年の205万人をピークにして、1995年には175万人、1999年には154万人くらいになると言われている。この18才人口の動態変化によっておこるおちこみは、高等教育機関への冬の時代の到来を予測させるものである。それ故に、いま、日本の高等教育機関は、経営戦略や、教育システムの構造改革を迫られている。本学、本学院においても、経営的なサバイバル作戦ともいうべき財務戦略を策定し、有効な投資をどのように行うべきか、そうしてそのことを、本学、本学院の学生確保にどのように結びつけてゆくか、また、日新月歩の今日の学問の進歩をふまえて、これからの新しい時代の教育をささえてゆくための実力のある教師、研究者をどのようにして集めるか、さらに合理的で有能な事務体制づくりの方策、など課題は山積している。

しかし、他力（法人本部や理事会）本願と批判に終始し、古色蒼然とした衣をまとったまま、決定的に立ち遅れてきたのが現実である。むしろ、変わらない方が良いのだという、都合のよい理屈も一方にあり、慣習と惰性の克服は絶望的であるようにさえ思えてくる。

よその大学では、着々とキャンパスを整備し、新しい学科をつくって冬の時代に備えているのが見えたり、きこえてくる。だから、この頃、焦っている。しかし4月に入ってようやくトンネルをぬけ、5号館の新築を中心にした、キャンパスの再開発の基本構想の実施が決まった。これから同窓会諸氏のエールを期待し、新しい学園づくりを夢みて全力をつくして走るつもりである。

（平成3年4月30日記）

大学審議会の2月答申による短大改革について

高知学園短期大学 事務局長 筒井 誠意
高知リハビリテーション学院

日本私立短期大学協会の春季定期総会で、大学審議会の2月答申をもとに改革がすすめられている。

1. 短期大学設置基準の大綱化
2. 「準学士」の称号付与
3. 学位授与機構の発足

など、改革に関する動向について、文部省高等教育局専門教育課長から話しがあったのでこれらのご事情についてお知らせいたします。

まず短大設置基準の大綱化のうち、学生が外国の短大、大学に留学した時に認められる単位互換数が現在の15単位から30単位まで引き上げられるよう改正作業が進められております。又皆さんには関心のあると思われる体育館は、現基準では、「なるべく備えるものとする」となりましたが、学生の心身の健康保持増進に努める事が重要であるとして「体育館は原則として備えるべきもの」とされますので本学も、第2期教育環境整備事業として来年度入学生の皆さんから協力をお願いし建設すべく計画致しております。

次に短大卒業生に「準学士」の称号が付与されることが、法律改正により決まりました。さらに

この法律が施行される平成3年7月1日前の卒業生も「準学士」と称することが出来ます。これにより今迄外国の大学への留学及び編入学、又日本の短大に留学した外国の学生の帰国後の就職時に、その必要性が指摘され強く要望されておりましたので、これの解決がはかられました。

このほか短大卒業生が、短大の専攻科や大学が開講する講座で単位を修得し、積み重ねていけば「学士」の称号が与えられる道を開く学位授与機構が7月1日に開設されます。

これら3つの重要事項を踏まえ、今後の展望について、短大教育専門委員会主査、佐久間千葉経済大学学長から「今回の短大設置基準の改正を活用し、各短大がそれぞれ新しい道を切り開いて欲しい」と呼びかけられました。本学に於きましても、各先生方から具体的な提案を頂き、実行に移し、これから迎える冬の時代のサバイバル戦略に負けない学園短大であってほしいと念願いたしております。

（リハ学院のことに触れずじまいでリハ同窓会会員の皆さんにお断わり致します。）

高知県教育界が誇りうるたった一つの日本一

—リハビリ学院の併修制度—

前高知学園短期大学学長
前高知リハビリテーション学院学長
高知学園短期大学名誉教授

近藤 勝

当然と言えばそれまでだが、高知県が誇りうる日本一は極めて少ない。その中の白眉は、何と言っても「女性の職場進出率日本一」であろう。

でも、日本一がないのかというと、否である。ずいぶんと多いのである。が、悲しいかなその多くは、いやその殆どがいわゆる最低の日本一なのである。こういう高知県が、いくら「国民休暇県」とか何とか言ったって、日本国民の大部分は恐らくソッポを向くのではあるまいか。

平成2年2月3日の高知新聞は、「殺人発生率また全国一」「2年連続の不名誉記録」の見出しで、目をおおいたくなるその実態を報じた。日本国民は、果たしてこれをどう見るであろうか…。

次に、県民所得を見てみよう。1988年度のそれは、180万円台で43位。しかもその伸び率にいたっては、涙の出る思いのビリっけつ。だが、である。これを逆から見ると（こんな見方は本当はしたくないのだが）、それぞれ第5位と第1位（日本一）ということになる。

このほか、高知県のいわゆる「ワーストI」は、それこそいくらでもある。今、私の脳裏に浮かんでくるものだけでも十や二十ではきかないのだから、

何ともはや情けない極みではある。

もうこの辺で、目を教育界だけに向けてみよう。すぐ、いくつかの日本一が浮かんでくるが、たった一つだけを除いて、他は総べて誇りうるものとは言えないと思う。例えば、高校における中途退学率。私のもっている最新の資料では第2位となっているが、それまでは数年間続けて第1位だった筈である。

こうした高知県の教育界において、たった一つだけまともに誇りうる日本一が儼然として存在する。それは高知リハビリテーション学院の佛敎大学との併修制度である。平成3年3月19日の高知新聞は、「佛敎大提携I期生も」「高知学短・リハビリ卒業式」の見出しで、こう報じた。

リハビリ学院では初めて佛敎大（京都）の通信制を併修した19人の学士が誕生した。

これで、リハビリ学院から学士の称号を持った理学療法士が、どんどん誕生することになった。この事実は、現時点において、どこからも文句のつけようがない、立派な「日本一」である。

この事実が、如何に大なる力を發揮するかは、学士の称号を獲得した本人自身が、人生の動機づけとして、しみじみと痛感するであろう。そして、私は、この併修制度の実現に、事務局長千谷氣清、理学療法学科長中屋久長両氏をはじめ、リハ学院の方々と共に、学院長として参画したことを、今でも大なる誇りに思っているものである。

あなうれし 併修みのり 十九人

学士となりて 巣立ちゆきたり

(平成3年4月24日記)



学短での思い出

前高知学園短期大学保健科長 柳 惣治郎

〈教育愛〉

保健専攻2年生の前期には、2週間の教育実習というのがある。それぞれ母校の中学校へ帰って、その生徒を対象に、教壇実習などをする事になっている。ちょうど、いまの立場とは逆に、初めて先生と呼ばれるようになるのである。

教育実習が終わったら、実習日誌の提出が課せられている。私にもその日誌を読む機会が与えられるのであるが、毎年すばらしい日誌が提出されている。受持ちの生徒達とのふれ合いが、驚くほどの新鮮な感覚でとらえられ、すどく観察されているからである。

遠い昔のこと、私にも嶺北の山の中学校で初めて教鞭をとったことがあるが、そのときの感激が、いま、昨日の事のように思い出される。それは、発達過程の純粋な生徒達の心にふれて、自分の真実を生徒の心に移入したいとねがう熱意、教育愛、教育熱とでもいうのであろうか。

皆んなの日誌には、このことが、生徒達とお別れの日の様子から、ありありとうかがうことができるのである。夜遅くまで指導案をつくり、生徒達と共に一日を過ごし、その日の反省を記録し、ピンと張った2週間の気持ちと苦勞が、一ぺんにお別れの涙となってふき出す様子が綴られている。

短大在学中にこの様に真剣に、自分のこととして取り組んだ2週間は、きっと、いつまでも忘れられない思い出として残っていることであろう。

〈苦勞の体験〉

歯科衛生専攻2年生の後期には、12週間の歯科臨床実習というのがある。歯科専攻として最後の総仕上げである。1人か2人ずつそれぞれが、市内の歯科医院へ割り当てられて、歯科医や先輩衛生士と一緒に患者さんの診療に当るのである。

ところで、毎年のことながら、きびしい歯科診療環境に順応できず、泣きながら訴える学生が数

人は出る。早速事情を聞いて、なぐさめたり、はげましたり、あるいは叱って、医院へ帰すのであるが、その都度私の心は痛む。早速医院へ出向いて事情を説明し、実習の継続を依頼するのであるが、現実の寒々としたすき間風が、容赦なく胸中を吹き抜けてゆく。

「職場での人間関係」これは、教室の講義では何回か聞いたことのあるテーマである。しかし、未経験の彼女らにとって、自分自身と相手との関係として、現実の渦中に放り出されたとき、そのことがどれほど重要な意味をもつのか、おそらく初めての体験ではないだろうか。この関係の「いいか」「わるいか」が、与えられた仕事がかううまく出来るか出来ないか、すべてを決めてしまう。専門技術は習うことはできても、このことは、自分自身の試行や錯誤の中から、やはり、自分でやり方をみつけ出すべききものである。

臨床実習が終れば、実習日誌が提出される。私にもその日誌を読む機会が与えられるのであるが、真剣な臨床経験の苦勞が綴られており、いままでに、定められた医院を放棄した人が一人もでないだけに、毎回、胸のつまる思いがするのである。

短大在学中にこの様な初めての人間関係の複雑さ、むつかしさの経験は、衛生士として将来、たくましく成長するうえで、きっと、役立つことであろう。



二人で

突然の原稿依頼に驚き、私などより立派になられた方々に、と申しましたところ「親子2代の第1号なので、普通の言葉でよいから」と、星野さんから励まされ、筆を執ることにしました。

さて、私が高知学園短大に入学したのは、昭和44年短大創立2年目の春でした。

登り下りの階段に息を弾ませ、一番下の調理実習室から最上階の裁縫実習室への移動等若ければこそそのファイトで頑張れました。

昨年、長女が入学するにあたり、卒業以来20年ぶりに2人であの並木の坂道を登りました。

突然…こもごもの思い出が胸中に押し寄せてまいります。当時、並木がもっとあったのではないかしら、と思えるそこに高知大学の学生がコンパの誘いにずらりと並んでいるのを、今は亡き学生部長の杉村先生が「うちの学生を誘惑してもらっては困る」と地肌に見えるお頭を真っ赤にされて追っ払ってしまわれて、参加できないまま終わったのが少し残念だったことや、正面玄関脇の、今は学生課のあるあたりは、確か靴箱があったことなど尽きることの無い思い出を語りながら恩師をお尋ねし、その先生方の年月を感じさせない若々

しさに驚かされました。

オレンジホールでの娘の入学式では、自分の時のことと重なり胸が熱くなりました。初めての卒業生を送る予餞会では、趣向を凝らし、劇を演じたりまた、先生方の飛び入りで日本舞踊のご披露があったり、何から何まで手作りでみんなで笑い転げた日が、またいとおしく昨日のように感じられます。

そして、高知学園体育祭、小・中・高・短大合同のマスゲームが高知市営陸上競技場で繰り広げられ、その時の棒体操は今ならさしずめ新体操と申しますか、なんだか戦時中の竹槍訓練を連想するようなものでした。あの、炎天下のもと全員が一丸となって頑張り、川島源司高知学園長先生がとても喜んでくださったことを記憶しております。

振り返れば、創立間もない短大で意欲に燃えた先生方と少人数なるがゆえの学生とのスキンシップが味わえ有意義にあの時代なりの青春が送れたことを感謝しております。

今、娘の進学にあたり母校にそして同じ科に進んでくれたことがとても嬉しくて、彼女が懐かし



並木道

食物栄養科2期 近森 千賀
食物栄養科2年 近森亜貴子

い恩師の話題を持ちだすと、もう、完全に同じ歳になって話をしてしまいます。

そして、選択科目の選び方や単位の取り方試験の出題の仕方等相談してくれる時、きっと私は、少し得意な顔をして親ではなく先輩の顔をして話しているのではないのでしょうか？

今や、卒業生の数も8,000人近くになられたとか、その同窓名簿に親子で名が記せることは、とても嬉しく思います。

どうか来春には次女も、と願っています。

最後になりましたが、高知学園短期大学の益々の充実とご発展を願い同窓の皆様のご活躍をお祈りいたします。 (母)



母の懐かしい思い出話を聞いて、私の生まれる前の高知学園短大を思ってみました。

きっと、旭ヶ丘近辺の家並は今のように明るいものではなく昔から建ものがたくさんあって、短大までの道のりもデコボコ道であったことでしょう。

短大での予餞会のことや、体育祭のことなど実際目で見たわけではないのですが、アルバムの中の母達の顔はとても生き生きとしていて、その充実感が伝わってきそうです。

母の言う並木道は、今では四季おりおりに山茶花やつつじや紫陽花が咲き、こじんまりと整頓されています。

短大での授業はとて多くて、単位をとるために頑張って出席しています。高校時代に比べて少しは楽かな？と思っはいたのですが…現実キビシイです。

でも、今私がとて楽しみに待っているのは新校舎ができるということです。あと10ヶ月もすれば卒業して社会に出てゆく私ですが、時々母の言うあの並木道を一緒に歩きたいと思っています。 (娘)



日本で学生やってみました

高知リハビリテーション学院21期 金 鎮宇

入学当時26歳だった私は、9歳年下の同級生たちと一緒に学校生活をやっていくだけではなく、外国人だから言葉と習慣や考え方の違いに不安を持っていた。まず年は同級生たちが年を取るのを待つ事はできないし、色々考えたが、彼らの中に溶け込むようにした。それが結果として彼らと親しくなったのかもしれない。さらに年が近い同級生がいたのでうまくいったのだと思う。言葉についてはニュアンスなどは今もなんとなくわかるぐらいだが4年かかってどんな言葉が上品または下品であるかはわかるようになったつもりである。

しかし言葉だけではなく文章を読んで理解するのは今も自信はない。そのことが授業や試験に影響を与えていた。物を覚えるにも日本人よりは時間を要した。今は日本語で考えて日本語で話している。たまにソウルの人に電話をしたら滑らかに話せない時もあるので「あなたどこの国の人?」といわれ無国籍である。習慣については何よりも食べ物の味になれなくて栄養失調になったこともある。それなら自炊すれば良いと考えるかもしれないが韓国では「男子厨房に入らず」なので経験がなかった。もちろん洗濯も経験ナ

シ。でも今は一人前だ。考え方については今もまだその違いをうまく表現出来ない。学生の勉強のやり方は韓国に比べて日本の方が賢いか要領が良いかのどちらかであろう。

学校を卒業して思えば先生をはじめ囲りの人に世話ばかりかけていたと思う。本当にリハの同級生に深く感謝している。

この4年間で私の日本人に対しての考え方を大きく変えたと思う。

대단히 감사합니다.

(どうも ありがとうございます。)



言葉の壁を乗り越えて
韓国留学生の金さん
高知リハビリテーション学院は韓国の留学生、金鎮宇さん(金)ソウル市出身にも言葉の壁を乗り越えての四年間の学生生活に別れを告げた。

ソウル市内の大学を卒業後、兵庫県内の重度障害児施設で研修していたが、韓国の資格では日本で働けないことを知り、知人を通じて同学院初の留学生として来高した。卒業論文も日本語で作成。「専門用語が多いので、他の学生よりかなりの時間がかかり」と話している。

保母になるのが夢

高知学園短大

南米から日系留学生



入学の喜びをかみしめる竹崎東さん
県民文化ホール

新入生は学園短大三百(二)名も式に出席した。三十九人、リハビリ学院二十五人。同短大の初めての留学生スシオン市の出身で、両親が熊本県出身の二世。保母にパラグアイからの竹崎東さんなるのが夢で、高校卒業後、

国立教育専門学校・幼児教育科で二年間勉強。「今度は日本語で幼児教育を学びたい」と来日決意。国際協力事業団の推薦で同短大への留学が決まった。
竹崎さんは、「入学できてうれしい。一人での生活は初めてですが、友達をたくさんつくりたい」と、流ちょうな日本語で喜びいっぱい。将来は、パラグアイで現地の子どもと日本人の子供が一緒に遊べる幼稚園を開くのが目標だという。

日本で学生します

幼児教育科1年 竹崎 泉

私は、パラグアイ人でもあり日本人でもあるのでスペイン語と日本語学校へ行っていました。

幼稚園を4才で入園したので父は、「おまえは1年早く入っているのだから落第してもいいのだぞ。」と、言われていました。

親はほとんどスペイン語が分からないのであんまり学校へいっしょに行ってくれませんでした。父兄会の時などは姉がいくか、欠席でした。高校の時、「どうしても親が出て来てくれなないとこまる。」と何回か言われましたので、1～2回目の時はしぶしぶと母は出席しました。3回目の時は、「ママがいても何も分からず、ただいすを温めるだけだから先生に話して泉がママの代わりに出たらどうなの。」と母が言いましたので先生に母が言った事をそのまま言いましたら「じゃ泉がママの横で説明してあげて、ぜひとも出席してもらいたいと先生が言っていたと伝えてください。」と学校の方からも言われました。

私が家に帰って先生に言われた事を伝えると「小学生じゃないのにうるさいな。」と母はいいましたが父兄会にはちゃんと出席してくれました。

こうして私は、小・中・高と過ごしてきました。大学は、親に反対されたけれど行きました。父は、「おまえは女なんだからなんも大学まで行くことないだろう。」と言われましたが2年間大学でいろんな人とふれあい多くの事を学んだので親の反対をさかず自分のやりたい事をしたので本当に良かったな、とつくづく思います。大学の勉強について始めのころだけ親は反対をしていました。

だって私が大学へ行きだしてすごく明るくなったと親も友人も言うていました。「大学ってただ勉強するだけじゃなく多くの人と知り合い、それぞれ性格も変わるのだからなあ。」とも言われました。

日本語はスペイン語の合間に勉強をしていましたので、休みと言う休みはほとんどありませんでしたが、いっぱい友達がいましたので遊ぶ時間は



すくなくとも楽しい数時間でした。

今は日本の大学で勉強させていただいて本当に有りがたく思っています。

まだ数週間の日本学生生活なので、パラグアイの学生生活とのちがいは分かりません。でも一つだけちがうのは、だれひとりスペイン語を話す人がいないのでたまに淋しい気持ちになります。

ですからと言っていやだいやだと言う気持ちでやっているのだめだと何回も自分に言い聞かせます。

人生みんないいこと悪いことがありますですがそれをこえて目的地へ着くのが生きているあかしだと思います。

私がいつも自分に言い聞かせるのは、“Fuerza... alcanza la meta ; la vida te sonrie. nada es imposible”です。日本語に訳すると“がんばれば... 目的地にたどり着こう、人生は笑っている、何ひとつ不可能な事はない”どうかみんな何かひとつ始めたら「ああきついな、おもしろくないな。」と言ってやめず、それをこえてください。

こえてからやっと、きつかったかどうか分かりますので、がんばろうじゃないか。

おらんくの池の向こう岸から

食物栄養科1期 岩瀬 淑子

早いもので私がアメリカに来てから18年がたちました。今は、カリフォルニア州プレザントン市に住んでいます。プレザントン市は、人口5万人で、サンフランシスコから車で東に45分程走った所にある緑の多いきれいな町です。気候も環境も良く、家族で住むには最適の所です。

私の家族構成は、コンピューターエンジニアをしている兵庫県出身の主人と子供2人（男の子16才、女の子10才）の4人です。子供達には日本の文化、言葉を学んで欲しいので、毎年夏休みには日本へ帰すようにしています。おかげで今では上手な土佐弁を話すようになりました。アメリカの子供達の夏休みは長く、6月中旬から9月始めまで夏休みの宿題もなく過ごします。しかし、夏休み中は子供のためのプログラム、デイキャンプやスポーツキャンプと呼ばれるものがあり、音楽、スポーツ、絵画、その他いろいろなものが学べる催しがあります。でも、共働きの多い親達にとって

は頭の痛い季節でもあります。私も4年前からフルタイムで働いているので、学校が休みになるたびに頭を悩ませます。

私の住んでいるベイエリア（サンフランシスコ湾周辺地域）は、日本レストラン、日本食料品店も多く、日本のものはほとんど何でも味わえ、何でも入手出来るようになりました。お米もおいしいカリフォルニア米を食べることが出来ます。（最近ではカリフォルニア米をおみやげに日本へ持って帰る人が増えています。）日本語のテレビ番組も毎日みることができ、日本についての情報網は行き届いており、本当に世界は狭くなり便利になったものだと痛感しています。ですから、異国に居るといった感じはあまりなく、ホームシックにかかることもあまりありません。

私は、これから先もずっとアメリカにいますが、日本人の心を忘れずに頑張っていきたいと思います。

《編集後期》

このところいささか低調の感があった同窓会活動を活発にしたいとの意向で、新編集部では機関誌である『花たちばな』の内容も一新するとの編集方針で発行にあたりました。

学短・リハも開校から20年を過ぎ、親子二代にわたって学短に学ばれるようになったことや、海外からの留学生も入学されるようになったことなど、時の流れと時代の変化を感じていただけるよう、ご寄稿願いました。また、高知を遠く離れて生活されている同窓生からのご寄稿で、場の広がりも感じていただけることと思います。

時間も空間もますます広がっていきます。学短・リハの校舎改築も予定されていますが、同窓会も学園に協力しながら、同窓会の輪を広げていきましょう。
（編集委員 山本 双一）

〔編集委員〕

リハ1期	山本 双一
食栄2期	星野 絹枝
食栄20期	山本 陽子
保健12期	槇山 美也子
リハ16期	山本 孝利
リハ18期	三浦 順子
衛生19期	江西 美佳
衛生19期	山崎 瑞代
衛生19期	山口 文
幼教19期	松下 佐恵
幼教19期	吉岡 香代
保健19期	稲垣 まどか
保健19期	戸田 美晴
食栄23期	松下 美知

マスターもママさんも元気です

＝ 居酒屋 丸陣 ＝

ニチイの北に『天下一酒場』と大それた看板をかかげた店がある。

ドアを開け一歩足を踏み入ると、手前にカウンター奥には座敷が目に入る。カウンター内では、陽気で少し気の短いマスターと、ささくなママさんが笑顔で迎えてくれる。

ここは、リハの学生が8年前の開店無料サービスより末長く利用し、迷惑をかけてきた店『居酒屋丸陣』である。

学生達が、飲めや歌えの大騒ぎをして学生時代を満喫した店である。

マスター言わく、「学生相手の商売は儲からんがいろんなおもしろいことがある。」

店じゅうの食べ物を、開店1時間ですべて食べられてしまいその後のお客さんに出す料理がなくなったことや、テストの前日、今日はメシだけだぞと言いながら互いに飲み合いとなり仲良く留年したもの。又、丸陣で初めて救急車を呼んだのも学生が飲みすぎて泡を吹いて倒れた時だそうです。「あの時はM氏の親の顔が頭にちらついて生きたこちがせんかった。そんな学生達が、今では患者さんにまじめな顔して訓練しているかと思うと可笑しゅうてたまらん。」とマスターは、笑いながら話してくれました。

リハの学生は県外生が多く卒業と同時に見なれた顔がいなくなるが高知へ来た時には丸陣によって学生時代の思い出話に花を咲かせましょう。マスターとママさんが昔と同じ笑顔で向かえてくれますよ。

(編集部 山本 孝利)

まあ寄ってみいや

中土佐町は、高知から西に約40km、車で約1時間30分位の所にあります。

今回紹介する所は、須崎の安和から、久礼にかけての海岸線沿いです。旧国道で、現在車の通りは少ないですが、ドライブ、釣り、磯遊び、海水浴もできる所があり、景色も最高です。

足に自信のある方は、JR安和駅から久礼まで約10km歩かれてみてはどうでしょうか。海岸線は、入江の多いリアス式海岸で山の緑・海の青さを満喫されることと思います。

歩いて約1時間少々、かつて土佐十景の一つにも選ばれた双名島があります。ここは、昔、暴风雨に苦しむ久礼浦の人々を助けようと鬼ヶ島の鬼がはるばる運んできたという民話が伝えられています。そのせいか、双名島より西側は、波も穏やかです。休息を入れるには、ここか、手前の大野の浜が良さそうに思います。

秋になると海岸沿いの山はだには、町の花でもあるノジギクの群集が、目を楽しませてくれます。

久礼の町に入れば、久礼八幡宮。新鮮な海・山の幸いっぱいの大正町（毎日夕方3時頃から）、白壁の町立美術館など見どころもあり一日が楽しめることと思います。

ぜひ一度立ち寄って見て下さい。

(編集部 三浦 順子)





同窓会総会開催のご案内

平成3年度高知学園短期大学・高知リハビリテーション学院同窓会を下記の要項で開催いたします。同窓会会員皆様のご出席をお願い申し上げます。なお、ご出席の有無を同封の返信はがきにて8月15日までにお知らせ下さい。

記

1. 日 時：平成3年9月16日（月）
2. 場 所：高知新阪急ホテル 3階
3. 日 程：講演会：16：00～ 《月の間》
 「ジョン万次郎の世界」
 日米学院理事長 永國淳哉先生
 総 会：17：30～ 《月の間》
 懇親会：18：00～20：00 《花の間》
4. 懇親会費：7,000円

同窓会役員

会 長	森本 榮 (リハ7)	
副会長	中屋 久長 (リハ1)	小笠原広美 (食采2)
理 事	町田 英人 (リハ3)	田島 廣子 (食采2)
	岡村 佳奈 (幼教10)	岡村由理子 (衛生20)
	北添 栄子 (保健4)	
会 計	山本 双一 (リハ1)	星野 網枝 (食采2)
監 事	杉本 洋子 (食采5)	山地 好市 (衛生1)
書 記	森 三佐子 (リハ6)	兵頭 幸徳 (衛生2)